

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限（2012年4月10日設定）	
運用方針	トルコ債券マザーファンド受益証券への投資を通じてトルコリラ建ての債券に実質的な投資を行い、主として利子収益の確保をめざして運用を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。デュレーション調整等のため、債券先物取引等を利用する場合があります。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要運用対象	ベビーマザーファンド	トルコ債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	トルコリラ建ての債券を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーマザーファンド	外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
	マザーファンド	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。なお、第2計算期末までの間は、収益の分配は行いません。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。  
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。  
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 運用報告書（全体版）

# Navio トルコ債券ファンド



第78期（決算日：2018年10月18日）  
 第79期（決算日：2018年11月19日）  
 第80期（決算日：2018年12月18日）  
 第81期（決算日：2019年1月18日）  
 第82期（決算日：2019年2月18日）  
 第83期（決算日：2019年3月18日）



### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
 さて、お手持ちの「Navio トルコ債券ファンド」は、去る3月18日に第83期の決算を行いましたので、法令に基づいて第78期～第83期の運用状況をまとめてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



## 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号  
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用フリーダイヤル **0120-151034**  
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

## 本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

## ○最近30期の運用実績

決算期	基準価額			(参考指数)		債組入比率	債先物比率	純資産額
	(分配落)	税込 分配	み 金	期 騰	中 落			
	円	円	%	(円ベース)	%	%	%	百万円
54期(2016年10月18日)	7,478	50	△ 2.0	218.37	△ 1.9	96.7	—	259
55期(2016年11月18日)	7,029	50	△ 5.3	207.26	△ 5.1	96.9	—	242
56期(2016年12月19日)	7,124	50	2.1	213.06	2.8	94.5	—	246
57期(2017年1月18日)	6,339	50	△ 10.3	190.30	△ 10.7	93.7	—	225
58期(2017年2月20日)	6,641	50	5.6	200.53	5.4	95.4	—	247
59期(2017年3月21日)	6,594	50	0.0	201.67	0.6	95.2	—	262
60期(2017年4月18日)	6,296	50	△ 3.8	194.81	△ 3.4	95.7	—	257
61期(2017年5月18日)	6,612	50	5.8	208.12	6.8	95.1	—	269
62期(2017年6月19日)	6,811	50	3.8	213.63	2.6	95.6	—	290
63期(2017年7月18日)	6,799	50	0.6	217.28	1.7	94.8	—	306
64期(2017年8月18日)	6,569	50	△ 2.6	213.00	△ 2.0	95.8	—	352
65期(2017年9月19日)	6,784	50	4.0	220.55	3.5	94.5	—	339
66期(2017年10月18日)	6,346	50	△ 5.7	208.03	△ 5.7	96.6	—	356
67期(2017年11月20日)	5,728	50	△ 9.0	188.99	△ 9.2	93.6	—	330
68期(2017年12月18日)	5,770	50	1.6	192.97	2.1	95.8	—	354
69期(2018年1月18日)	5,848	50	2.2	197.18	2.2	94.5	—	362
70期(2018年2月19日)	5,720	50	△ 1.3	195.54	△ 0.8	95.0	—	355
71期(2018年3月19日)	5,251	50	△ 7.3	182.62	△ 6.6	95.2	—	317
72期(2018年4月18日)	5,032	50	△ 3.2	176.68	△ 3.3	94.2	—	273
73期(2018年5月18日)	4,482	50	△ 9.9	158.08	△ 10.5	95.2	—	251
74期(2018年6月18日)	4,004	50	△ 9.5	143.76	△ 9.1	93.8	—	234
75期(2018年7月18日)	3,806	50	△ 3.7	140.70	△ 2.1	92.4	—	229
76期(2018年8月20日)	2,542	50	△ 31.9	90.86	△ 35.4	87.9	—	174
77期(2018年9月18日)	2,621	25	4.1	100.00	10.1	91.9	—	232
78期(2018年10月18日)	3,189	25	22.6	120.75	20.7	96.2	—	392
79期(2018年11月19日)	3,616	25	14.2	140.07	16.0	95.3	—	480
80期(2018年12月18日)	3,458	25	△ 3.7	135.13	△ 3.5	93.6	—	514
81期(2019年1月18日)	3,551	25	3.4	139.67	3.4	94.1	—	496
82期(2019年2月18日)	3,781	25	7.2	150.32	7.6	95.4	—	518
83期(2019年3月18日)	3,562	25	△ 5.1	142.61	△ 5.1	96.3	—	492

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) J PモルガンG B I - E M トルコ (円ベース) は、J PモルガンG B I - E Mグローバル・ダイバーシファイド (円ベース) のサブインデックスです。

J PモルガンG B I - E Mグローバル・ダイバーシファイド (円ベース) とは、J . P . モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。著作権はJ . P . モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しております。

(注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債組入比率」、「債先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債先物比率」は買建比率・売建比率。

## ○当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年月日	基準価額		(参考指数) J P モ ル ガ ン G B I - E M トルコ (円ベース)		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率
		騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
第78期	(期首) 2018年9月18日	円 2,621	% —	100.00	% —	% 91.9	% —
	9月末	2,885	10.1	110.78	10.8	96.4	—
	(期末) 2018年10月18日	3,214	22.6	120.75	20.7	96.2	—
第79期	(期首) 2018年10月18日	3,189	—	120.75	—	96.2	—
	10月末	3,304	3.6	126.22	4.5	95.8	—
	(期末) 2018年11月19日	3,641	14.2	140.07	16.0	95.3	—
第80期	(期首) 2018年11月19日	3,616	—	140.07	—	95.3	—
	11月末	3,786	4.7	147.23	5.1	92.9	—
	(期末) 2018年12月18日	3,483	△ 3.7	135.13	△ 3.5	93.6	—
第81期	(期首) 2018年12月18日	3,458	—	135.13	—	93.6	—
	12月末	3,569	3.2	140.16	3.7	92.7	—
	(期末) 2019年1月18日	3,576	3.4	139.67	3.4	94.1	—
第82期	(期首) 2019年1月18日	3,551	—	139.67	—	94.1	—
	1月末	3,717	4.7	148.49	6.3	96.3	—
	(期末) 2019年2月18日	3,806	7.2	150.32	7.6	95.4	—
第83期	(期首) 2019年2月18日	3,781	—	150.32	—	95.4	—
	2月末	3,753	△ 0.7	150.23	△ 0.1	94.9	—
	(期末) 2019年3月18日	3,587	△ 5.1	142.61	△ 5.1	96.3	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み合わせるので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

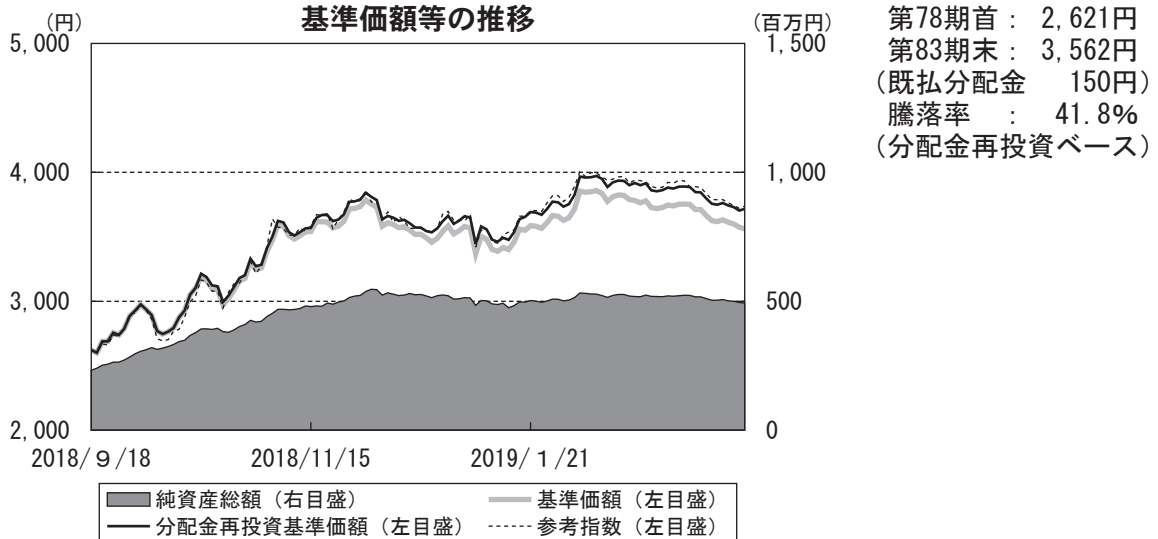
(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

## 運用経過

当作成期中の基準価額等の推移について (第78期～第83期：2018/9/19～2019/3/18)

基準価額の動き

基準価額は当作成期首に比べ41.8%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。



・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

## 基準価額の主な変動要因

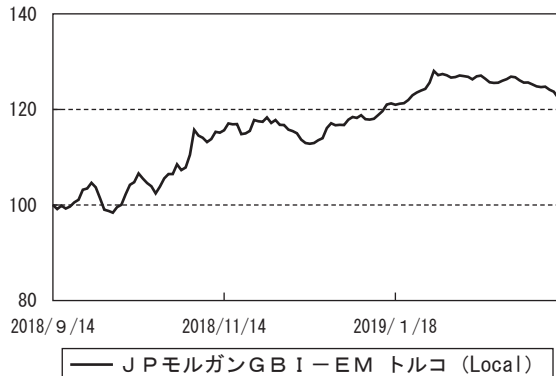
上昇要因

債券価格が上昇したこと、トルコリラが対円で上昇したことに加え、債券の利子収益を享受したことなどが基準価額の上昇要因となりました。

## 投資環境について

(第78期～第83期：2018/9/19～2019/3/18)

### 債券市況の推移 (当作成期首を100として指数化)

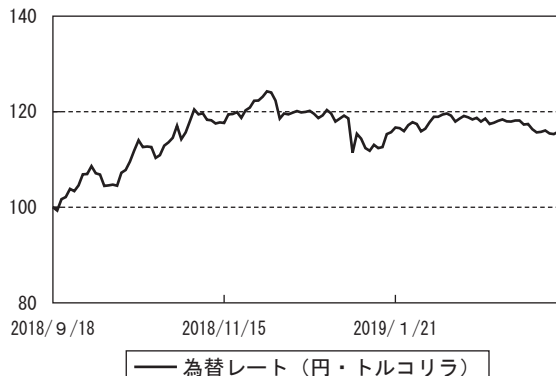


(注) 現地日付ベースで記載しております。

#### ◎債券市況

- ・トルコの債券市場では金利は低下しました。
- ・当作成期首から2019年1月末にかけては、トルコの中央銀行が政策金利を高い水準に据え置き、引き締め的な金融政策を維持したことや、原油価格が下落したことなどを背景に、同国のインフレ率の減速や経常収支の改善が見られ、投資家センチメントが改善したことから、金利は低下基調で推移しました。その後、当作成期末にかけては、同国の経常収支の悪化が懸念され、金利は上昇基調に転換しましたが、当作成期を通じてみると金利は低下して終わりました。

### 為替市況の推移 (当作成期首を100として指数化)



#### ◎為替市況

- ・トルコリラは対円で上昇しました。2018年11月末にかけて、前記経常収支の改善などから、トルコリラは対円で上昇しました。その後、当作成期末にかけては、トルコの中央銀行が引き締め的な金融政策を維持する中、同国のファンダメンタルズ改善に対する慎重な見方などから、トルコリラは対円で概ね横ばいで推移しました。結果、当作成期を通じてみると、トルコリラは対円で上昇して終わりました。

## 当該投資信託のポートフォリオについて

**i** 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

### <N a v i o トルコ債券ファンド>

- ・トルコ債券マザーファンド受益証券への投資を通じてトルコリラ建ての債券に実質的な投資をしました。

### <トルコ債券マザーファンド>

基準価額は当作成期首に比べ43.0%の上昇となりました。

- ・トルコリラ建ての債券に投資を行い、主として利子収益の確保をめざして運用を行い、当作成期を通じて債券現物の組入比率は高位を維持しました。
- ・流動性を勘案し、国債のみのポートフォリオを維持しました。
- ・デュレーション（平均回収期間や金利感応度）は、当作成期首から参考指数比中立としていましたが、2019年3月に、インフレの高止まりが金利上昇要因になると判断し、参考指数比中立から短めに変更しました。
- ・債券価格が上昇したこと、トルコリラが対円で上昇したことに加え、債券の利子収益を享受したことなどが基準価額のプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

（ご参考）

### 利回り・デュレーション

作成期首（2018年9月18日）

最終利回り	20.6%
直接利回り	12.8%
デュレーション	2.8年

作成期末（2019年3月18日）

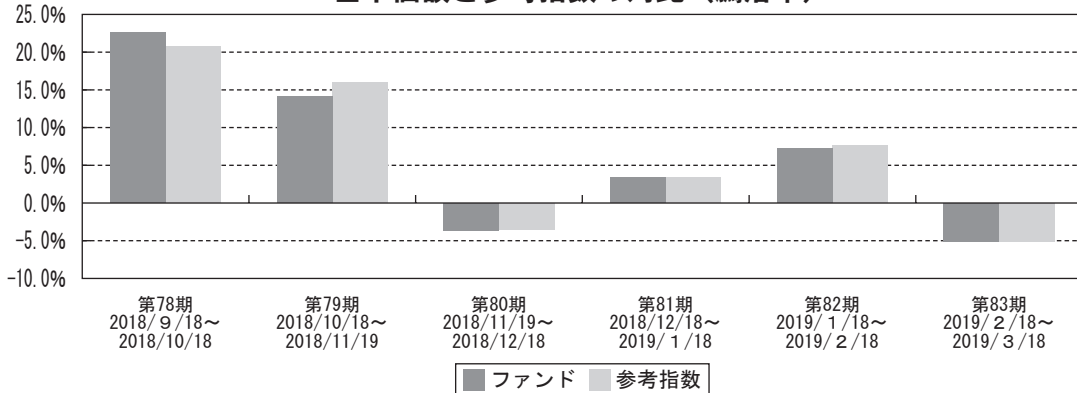
最終利回り	17.1%
直接利回り	11.6%
デュレーション	2.8年

- ・数値は債券現物部分で計算しております。
- ・最終利回りとは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・利回りは、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。
- ・デュレーション調整のため、債券先物を組み入れることがあります。この場合、デュレーションについては債券先物を含めて計算しています。

当該投資信託のベンチマークとの差異について (第78期～第83期：2018/9/19～2019/3/18)

**i** ベンチマークまたは参考指数と比較することで、期間中の運用内容を評価することができます。

基準価額と参考指数の対比 (騰落率)



・ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

- ・当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。上記のグラフは当ファンド（ベビーファンド）の基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ・参考指数はJPモルガンGBI-EMトルコ（円ベース）です。

## 分配金について

**i** 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額（翌期に繰越す分配原資）がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額的水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

### 【分配原資の内訳】

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
	2018年9月19日～ 2018年10月18日	2018年10月19日～ 2018年11月19日	2018年11月20日～ 2018年12月18日	2018年12月19日～ 2019年1月18日	2019年1月19日～ 2019年2月18日	2019年2月19日～ 2019年3月18日
当期分配金	25	25	25	25	25	25
（対基準価額比率）	0.778%	0.687%	0.718%	0.699%	0.657%	0.697%
当期の収益	25	25	25	25	25	25
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	4,252	4,266	4,272	4,281	4,292	4,295

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

**!** 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。



## 今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

### <N a v i o トルコ債券ファンド>

#### ◎今後の運用方針

- ・トルコ債券マザーファンド受益証券の組入比率を高位とする方針です。

### <トルコ債券マザーファンド>

#### ◎運用環境の見通し

- ・トルコの債券市場では、トルコ中央銀行が引き締めの姿勢を維持する中、高インフレと経常赤字という経済問題への思惑から、引き続き変動性の高い展開が続くと考えます。今後は、中東情勢を巡る欧米諸国との政治動向に加え、政策当局が投資家の信認回復に向け、高インフレや経常赤字に対して規律ある経済・財政政策を実行していくことができるかが鍵を握ると考えます。
- ・トルコの為替市場では、本邦との金利差拡大など金利面での魅力度の高まりがトルコリラの対円での上昇要因と考えます。一方、米中間の通商問題などを背景とした中国経済の減速懸念などによるリスク回避的な円買いに加え、前記トルコ国内の経済・政治情勢に対する不透明感がトルコリラの対円での下落要因と考えます。トルコリラの安定化には、高インフレなど構造的な問題に対して投資家の信認を得るべく、政策当局が不断の姿勢で取り組んでいくことができるかが鍵を握ると考えます。
- ・長期的な観点では、トルコは、欧州、中東、アジアなどの中間地点に位置するなど、貿易中継地としての立地に恵まれているほか、人口構成が若く、内需のさらなる拡大にも期待が持てることなどから、今後の成長期待を背景とした海外からの投資拡大がトルコ金融市場の下支えになると予想します。

#### ◎今後の運用方針

(組入比率)

- ・安定した利子収益の確保をめざし、引き続き高位組み入れを継続する方針です。

(種別構成)

- ・当面は国債中心の運用とする方針です。

(デュレーション)

- ・トルコの今後の金融政策や政治動向、グローバルな景気動向などを睨みながら、機動的に操作する方針です。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2018年9月19日～2019年3月18日)

項 目	第78期～第83期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率× (作成期中の日数÷年間日数)
( 投 信 会 社 )	(12)	(0.339)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(12)	(0.339)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 1 )	(0.021)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	7	0.194	(b) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 7 )	(0.192)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
( 監 査 費 用 )	( 0 )	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
( そ の 他 )	( 0 )	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	31	0.893	
作成期中の平均基準価額は、3,450円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○ 売 買 及 び 取 引 の 状 況

(2018年9月19日～2019年3月18日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	第78期～第83期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
トルコ債券マザーファンド	千口 397,032	千円 222,593	千口 150,766	千円 94,783

## ○利害関係人との取引状況等

(2018年9月19日～2019年3月18日)

## 利害関係人との取引状況

&lt;N a v i o トルコ債券ファンド&gt;

該当事項はございません。

&lt;トルコ債券マザーファンド&gt;

区 分	第78期～第83期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
為替直物取引	百万円 204	百万円 4	% 2.0	百万円 72	百万円 42	% 58.3

平均保有割合 100.0%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ信託銀行、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

## ○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2018年9月19日～2019年3月18日)

作成期首残高(元本)	当作成期設定元本	当作成期解約元本	作成期末残高(元本)	取引の理由
百万円 300	百万円 -	百万円 -	百万円 300	当初設定時における取得

## ○組入資産の明細

(2019年3月18日現在)

## 親投資信託残高

銘 柄	第77期末		第83期末	
	口 数		口 数	評 価 額
トルコ債券マザーファンド	千口 508,946		千口 755,211	千円 491,718

## ○投資信託財産の構成

(2019年3月18日現在)

項 目	第83期末	
	評 価 額	比 率
トルコ債券マザーファンド	千円 491,718	% 98.4
コール・ローン等、その他	7,905	1.6
投資信託財産総額	499,623	100.0

(注) トルコ債券マザーファンドにおいて、作成期末における外貨建純資産(490,433千円)の投資信託財産総額(496,634千円)に対する比率は98.8%です。

(注) 外貨建資産は、作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、作成期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 トルコリラ=20.51円			
----------------	--	--	--

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第78期末	第79期末	第80期末	第81期末	第82期末	第83期末
	2018年10月18日現在	2018年11月19日現在	2018年12月18日現在	2019年1月18日現在	2019年2月18日現在	2019年3月18日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	396,745,030	496,540,686	525,567,654	500,813,977	526,930,865	499,623,837
コール・ローン等	4,899,162	5,122,916	6,765,441	2,306,050	4,170,832	2,972,547
トルコ債券マザーファンド(評価額)	391,845,868	479,234,358	512,837,275	494,962,247	517,109,653	491,718,434
未収入金	—	12,183,412	5,964,938	3,545,680	5,650,380	4,932,856
(B) 負債	3,998,230	16,178,766	11,476,442	4,288,105	8,568,754	6,717,500
未払収益分配金	3,078,851	3,321,460	3,716,202	3,495,503	3,427,379	3,459,332
未払解約金	572,724	12,325,183	7,179,410	189,659	4,526,082	2,704,047
未払信託報酬	345,543	530,404	578,949	601,000	613,314	552,342
未払利息	8	10	14	4	7	4
その他未払費用	1,104	1,709	1,867	1,939	1,972	1,775
(C) 純資産総額(A-B)	392,746,800	480,361,920	514,091,212	496,525,872	518,362,111	492,906,337
元本	1,231,540,456	1,328,584,198	1,486,481,092	1,398,201,541	1,370,951,821	1,383,733,097
次期繰越損益金	△ 838,793,656	△ 848,222,278	△ 972,389,880	△ 901,675,669	△ 852,589,710	△ 890,826,760
(D) 受益権総口数	1,231,540,456口	1,328,584,198口	1,486,481,092口	1,398,201,541口	1,370,951,821口	1,383,733,097口
1万口当たり基準価額(C/D)	3,189円	3,616円	3,458円	3,551円	3,781円	3,562円

## ○損益の状況

項 目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
	2018年9月19日～ 2018年10月18日	2018年10月19日～ 2018年11月19日	2018年11月20日～ 2018年12月18日	2018年12月19日～ 2019年1月18日	2019年1月19日～ 2019年2月18日	2019年2月19日～ 2019年3月18日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	△ 97	△ 351	△ 299	△ 171	△ 174	△ 79
受取利息	1	—	—	—	—	—
支払利息	△ 98	△ 351	△ 299	△ 171	△ 174	△ 79
(B) 有価証券売買損益	65,260,379	57,229,026	△ 19,997,674	16,977,910	34,138,600	△ 25,977,353
売買益	66,008,339	60,919,500	391,469	17,798,296	36,018,066	418,412
売買損	△ 747,960	△ 3,690,474	△ 20,389,143	△ 820,386	△ 1,879,466	△ 26,395,765
(C) 信託報酬等	△ 346,647	△ 532,113	△ 580,816	△ 602,948	△ 615,286	△ 554,117
(D) 当期損益金 (A + B + C)	64,913,635	56,696,562	△ 20,578,789	16,374,791	33,523,140	△ 26,531,549
(E) 前期繰越損益金	△ 265,618,804	△ 177,660,985	△ 114,069,514	△ 125,489,687	△ 105,064,318	△ 72,298,430
(F) 追加信託差損益金	△ 635,009,636	△ 723,936,395	△ 834,025,375	△ 789,065,270	△ 777,621,153	△ 788,537,449
(配当等相当額)	( 471,452,293)	( 519,983,292)	( 591,666,809)	( 558,404,531)	( 549,523,184)	( 556,523,710)
(売買損益相当額)	(△1,106,461,929)	(△1,243,919,687)	(△1,425,692,184)	(△1,347,469,801)	(△1,327,144,337)	(△1,345,061,159)
(G) 計 (D + E + F)	△ 835,714,805	△ 844,900,818	△ 968,673,678	△ 898,180,166	△ 849,162,331	△ 887,367,428
(H) 収益分配金	△ 3,078,851	△ 3,321,460	△ 3,716,202	△ 3,495,503	△ 3,427,379	△ 3,459,332
次期繰越損益金 (G + H)	△ 838,793,656	△ 848,222,278	△ 972,389,880	△ 901,675,669	△ 852,589,710	△ 890,826,760
追加信託差損益金	△ 635,009,636	△ 723,936,395	△ 834,025,375	△ 789,065,270	△ 777,621,153	△ 788,537,449
(配当等相当額)	( 472,091,092)	( 520,486,040)	( 592,121,005)	( 558,500,896)	( 549,655,047)	( 556,614,728)
(売買損益相当額)	(△1,107,100,728)	(△1,244,422,435)	(△1,426,146,380)	(△1,347,566,166)	(△1,327,276,200)	(△1,345,152,177)
分配準備積立金	51,656,083	46,378,779	42,979,909	40,138,899	38,807,885	37,811,864
繰越損益金	△ 255,440,103	△ 170,664,662	△ 181,344,414	△ 152,749,298	△ 113,776,442	△ 140,101,175

(注) (B) 有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## &lt;注記事項&gt;

- ① 作成期首 (前作成期末) 元本額 885,851,865円  
 作成期中追加設定元本額 1,124,744,063円  
 作成期中一部解約元本額 626,862,831円  
 また、1口当たり純資産額は、作成期末0.3562円です。
- ② 純資産総額が元本額を下回っており、その差額は890,826,760円です。
- ③ 分配金の計算過程

項 目	2018年9月19日～ 2018年10月18日	2018年10月19日～ 2018年11月19日	2018年11月20日～ 2018年12月18日	2018年12月19日～ 2019年1月18日	2019年1月19日～ 2019年2月18日	2019年2月19日～ 2019年3月18日
費用控除後の配当等収益額	3,325,228円	4,665,943円	4,129,696円	4,653,773円	4,786,094円	3,845,514円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	—円	—円	—円	—円	—円	—円
収益調整金額	472,091,092円	520,486,040円	592,121,005円	558,500,896円	549,655,047円	556,614,728円
分配準備積立金額	51,409,706円	45,034,296円	42,566,415円	38,980,629円	37,449,170円	37,425,682円
当ファンドの分配対象収益額	526,826,026円	570,186,279円	638,817,116円	602,135,298円	591,890,311円	597,885,924円
1万口当たり収益分配対象額	4,277円	4,291円	4,297円	4,306円	4,317円	4,320円
1万口当たり分配金額	25円	25円	25円	25円	25円	25円
収益分配金金額	3,078,851円	3,321,460円	3,716,202円	3,495,503円	3,427,379円	3,459,332円

## ○分配金のお知らせ

	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
1 万口当たり分配金 (税込み)	25円	25円	25円	25円	25円	25円

◆分配金は各決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。

◆課税上の取り扱い

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

※NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

\*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

### 【お 知 ら せ】

2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。）の税率が適用されます。

## トルコ債券マザーファンド

## 《第7期》決算日2019年3月18日

[計算期間：2018年3月20日～2019年3月18日]

「トルコ債券マザーファンド」は、3月18日に第7期の決算を行いました。  
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第7期の運用状況をご報告申し上げます。

運用方針	トルコリラ建ての債券に投資を行い、主として利子収益の確保をめざして運用を行います。投資にあたっては、トルコの国債、政府機関債、政府保証債ならびにトルコリラ建ての国際機関債等に投資を行います。金利や物価の動向、経済情勢や投資環境等を勘案してポートフォリオを構築します。デュレーション調整等のため、債券先物取引等を利用する場合があります。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主要運用対象	トルコリラ建ての債券を主要投資対象とします。
主な組入制限	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		(参考指数) J P モ ル ガ ン G B I - E M トルコ (円ベース)		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落	中 率	期 騰 落	中 率			
	円	%		%	%	%	百万円
3期(2015年3月18日)	12,951	18.8	272.42	19.4	96.8	—	358
4期(2016年3月18日)	11,292	△12.8	239.03	△12.3	96.9	—	297
5期(2017年3月21日)	9,484	△16.0	201.67	△15.6	95.4	—	262
6期(2018年3月19日)	8,432	△11.1	182.62	△9.4	95.4	—	316
7期(2019年3月18日)	6,511	△22.8	142.61	△21.9	96.6	—	491

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) J P モルガン G B I - E M トルコ (円ベース) は、J P モルガン G B I - E M グローバル・ダイバーシファイド (円ベース) のサブインデックスです。

J P モルガン G B I - E M グローバル・ダイバーシファイド (円ベース) とは、J . P . モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。著作権は J . P . モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しております。

(注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		( 参 考 指 数 ) J P モ ル ガ ン G B I - E M ト ル コ (円ベース)		債 組 入 比 率 %	債 先 物 比 率 %
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期 首) 2018年3月19日	円 8,432	% —	182.62	% —	95.4	—
3月末	8,413	△ 0.2	181.97	△ 0.4	95.5	—
4月末	8,527	1.1	183.80	0.6	96.4	—
5月末	7,343	△12.9	158.95	△13.0	95.9	—
6月末	6,868	△18.5	149.43	△18.2	94.7	—
7月末	6,184	△26.7	133.46	△26.9	92.1	—
8月末	3,923	△53.5	85.27	△53.3	84.5	—
9月末	5,017	△40.5	110.78	△39.3	96.7	—
10月末	5,800	△31.2	126.22	△30.9	96.0	—
11月末	6,705	△20.5	147.23	△19.4	93.1	—
12月末	6,370	△24.5	140.16	△23.3	92.9	—
2019年1月末	6,692	△20.6	148.49	△18.7	96.6	—
2月末	6,808	△19.3	150.23	△17.7	95.1	—
(期 末) 2019年3月18日	6,511	△22.8	142.61	△21.9	96.6	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

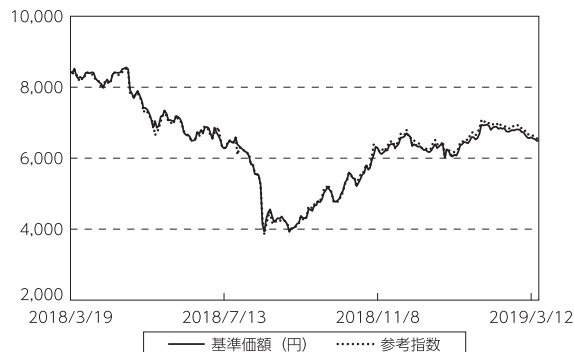
## ○運用経過

## ●当期中の基準価額等の推移について

## ◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ22.8%の下落となりました。

基準価額等の推移



(注) 参考指数は期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

## ●投資環境について

## ◎債券市況

- ・トルコの債券市場では金利は上昇しました。
- ・期首から2018年8月中旬にかけては、自国通貨安を背景としたインフレの加速や、エルドアン大統領による利上げ牽制発言を背景としたトルコ中央銀行の独立性への懸念などから、トルコの金利は上昇しました。その後、期末にかけては、トルコの中央銀行が政策金利を高い水準に設定し、引き締めの金融政策を維持したことや原油価格の下落などから、同国のインフレ率の減速や経常収支の改善が見られ、投資家センチメントが改善したことから、金利は低下基調となりましたが、期を通じてみると、金利は上昇して終わりました。

## ◎為替市況

- ・トルコリラは対円で下落しました。
- ・期首から2018年8月にかけては、前記インフレ



の加速やトルコ中央銀行の独立性への懸念などから、トルコリラは対円で下落しました。その後、トルコ中央銀行が引き締めの金融政策を維持し、同国のインフレ率の減速や経常収支の改善が見られたことなどから、11月末にかけて、トルコリラは対円で上昇基調に転換しました。期末にかけては、引き続きトルコの中央銀行が引き締めの金融政策を維持する中、同国のファンダメンタルズ改善に対する慎重な見方などから、トルコリラは対円で概ね横ばいで推移しました。結果、期を通じてみると、トルコリラは対円で下落して終わりました。

#### ●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・トルコリラ建ての債券に投資を行い、主として利子収益の確保をめざして運用を行い、期を通じて債券現物の組入比率は高位を維持しました。
- ・流動性を勘案し、国債のみのポートフォリオを維持しました。
- ・デュレーション（平均回収期間や金利感応度）は、期首から、トルコ中央銀行の利上げにより、絶対的な金利水準で魅力度が高まったと判断し、参考指数比長めとしましたが、インフレ圧力抑制に向けた政策当局の対応の遅れや欧米との政治的緊張感が高まったことなどから、2018年4月に中立に変更しました。6月には、トルコ中央銀行が利上げを継続し、金融政策の不透明感が後退したと判断し参考指数対比長めに変更しましたが、政策当局による経済・財政政策の不透明感の高まりや、米国との政治的緊張感の高まりなどを注視し、7月末に参考指数比中立に変更しました。2019年3月には、インフレの高止まりが金利上昇要因になると判断し、参考指数比中立から短めに変更しました。
- ・債券の利子収益を享受したことは基準価額にプラス要因となったものの、トルコリラが対円で下落したことやトルコの金利が上昇したことなどがマイナス要因となり、基準価額は下落しました。

#### ○今後の運用方針

##### ◎運用環境の見通し

- ・トルコの債券市場では、トルコ中央銀行が引き締めの姿勢を維持する中、高インフレと経常赤字という経済問題への思惑から、引き続き変動性の高い展開が続くと考えます。今後は、中東情勢を巡る欧米諸国との政治動向に加え、政策当局が投資家の信認回復に向け、高インフレや経常赤字に対して規律ある経済・財政政策を実行していくことができるかが鍵を握ると考えます。
- ・トルコの為替市場では、本邦との金利差拡大など金利面での魅力度の高まりがトルコリラの対円での上昇要因と考えます。一方、米中間の通商問題などを背景とした中国経済の減速懸念などによるリスク回避的な円買いに加え、前記トルコ国内の経済・政治情勢に対する不透明感がトルコリラの対円での下落要因と考えます。トルコリラの安定化には、高インフレなど構造的な問題に対して投資家の信認を得るべく、政策当局が不断の姿勢で取り組んでいくことができるかが鍵を握ると考えます。
- ・長期的な観点では、トルコは、欧州、中東、アジアなどの中間地点に位置するなど、貿易中継地としての立地に恵まれているほか、人口構成が若く、内需のさらなる拡大にも期待が持てることなどから、今後の成長期待を背景とした海外からの投資拡大がトルコ金融市場の下支えになると予想します。

##### ◎今後の運用方針

###### （組入比率）

- ・安定した利子収益の確保をめざし、引き続き高位組み入れを継続する方針です。

###### （種別構成）

- ・当面は国債中心の運用とする方針です。

###### （デュレーション）

- ・トルコの今後の金融政策や政治動向、グローバルな景気動向などを睨みながら、機動的に操作する方針です。

## ○1万口当たりの費用明細

(2018年3月20日～2019年3月18日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円	%	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	31	0.481	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
( そ の 他 )	(31)	(0.478)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	(0)	(0.003)	
期中の平均基準価額は、6,384円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2018年3月20日～2019年3月18日)

## 公社債

			買 付 額	売 付 額
			千トルコリラ	千トルコリラ
外国	トルコ	国債証券	29,075	17,801

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

## ○利害関係人との取引状況等

(2018年3月20日～2019年3月18日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B	B A	%	うち利害関係人 との取引状況D	D C	%
為替直物取引	百万円 292	百万円 4	1.4	百万円 116	百万円 75	64.7

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ信託銀行、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

## ○組入資産の明細

(2019年3月18日現在)

## 外国公社債

## (A) 外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
	千トルコリラ	千トルコリラ	千円	%	%	%	%	%
トルコ	28,820	23,150	474,823	96.6	96.6	31.5	50.5	14.6
合 計	28,820	23,150	474,823	96.6	96.6	31.5	50.5	14.6

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

## (B) 外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄		当 期 末					償還年月日
		利 率	額面金額	評 価 額			
				外貨建金額	邦貨換算金額		
トルコ		%	千トルコリラ	千トルコリラ	千円		
	国債証券						
	10.4 TURKEY GOVT 240320	10.4	1,630	1,290	26,467	2024/3/20	
	10.5 TURKEY GOVT 200115	10.5	2,500	2,347	48,147	2020/1/15	
	11 TURKEY GOVT 220302	11.0	1,360	1,149	23,584	2022/3/2	
	11 TURKEY GOVT 270224	11.0	4,250	3,317	68,034	2027/2/24	
	12.4 TURKEY GOVT 280308	12.4	1,180	999	20,498	2028/3/8	
	7.1 TURKEY GOVT 230308	7.1	2,650	1,916	39,307	2023/3/8	
	8 TURKEY GOVT 250312	8.0	1,500	1,050	21,552	2025/3/12	
	8.8 TURKEY GOVT 230927	8.8	2,950	2,232	45,789	2023/9/27	
	9 TURKEY GOVT 240724	9.0	1,200	890	18,254	2024/7/24	
	9.2 TURKEY GOVT 210922	9.2	2,110	1,743	35,759	2021/9/22	
	9.4 TURKEY GOVT 200708	9.4	1,290	1,150	23,600	2020/7/8	
	9.5 TURKEY GOVT 220112	9.5	6,200	5,062	103,827	2022/1/12	
合 計					474,823		

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

## ○投資信託財産の構成

(2019年3月18日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	474,823	95.6
コール・ローン等、その他	21,811	4.4
投資信託財産総額	496,634	100.0

(注) 期末における外貨建純資産(490,433千円)の投資信託財産総額(496,634千円)に対する比率は98.8%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1トルコリラ=20.51円		
---------------	--	--

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2019年3月18日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	496,634,661
コール・ローン等	9,016,481
公社債(評価額)	474,823,406
未収利息	9,671,533
前払費用	3,123,241
(B) 負債	4,932,865
未払解約金	4,932,856
未払利息	9
(C) 純資産総額(A-B)	491,701,796
元本	755,211,848
次期繰越損益金	△263,510,052
(D) 受益権総口数	755,211,848口
1万口当たり基準価額(C/D)	6,511円

## &lt;注記事項&gt;

- ①期首元本額 375,897,367円  
 期中追加設定元本額 601,686,115円  
 期中一部解約元本額 222,371,634円  
 また、1口当たり純資産額は、期末0.6511円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

Navi o トルコ債券ファンド 755,211,848円

③純資産総額が元本額を下回っており、その差額は263,510,052円です。

## ○損益の状況 (2018年3月20日~2019年3月18日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	39,176,836
受取利息	39,180,850
支払利息	△ 4,014
(B) 有価証券売買損益	△ 40,712,626
売買益	35,038,105
売買損	△ 75,750,731
(C) 保管費用等	△ 1,703,823
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 3,239,613
(E) 前期繰越損益金	△ 58,936,023
(F) 追加信託差損益金	△274,693,706
(G) 解約差損益金	73,359,290
(H) 計(D+E+F+G)	△263,510,052
次期繰越損益金(H)	△263,510,052

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。